

今月の自然観察会は特別なプログラムが用意されていました。講師に村松憲一さんをお招きして、「平和公園の大地の生い立ち」と題した講座を案内していただきました。一方で今回も多くの子どもたちの参加があり、所々で早春の生きものの様子も観察しながら歩きました。



左の地図の緑のラインが今回の地層見学のコースです。主に赤い数字の場所で地層を観察しました。平和公園で見られる地層には、八事層、その下に唐山層、そして最下部に東海層群矢田川層猪高部層があり、それぞれをあるいはその複数を同時に見られるポイントを配置した順路でした。

まず里山の家を出てまもない地点で、**猪高部層**の様子を観察しました。猪高部層は平和公園周辺の土台となっている地層とこのことです。砂やシルトの中に礫(石ころ)が含まれているのがわかり、礫の色は白をはじめ黒っぽい物も見られました。次に**01**番の場所で観察した猪高部層は、先ほど見た礫層の下の**シルト層**

が目立ちました。シルトは粘土よりも少しザラザラした粒で、難透水の性質を持つものの焼きものにするには粒が大きく不向きということでした。少し移動して道路を渡ったところで、かつては唐山層の**火山灰層**が見られたという場所が紹介されました。この頃から小雨が降り始めました。



続いて**02**番の唐山層を見に行きました。唐山層は八事層に覆われているため、斜面の中ほどで観察されました。含まれる礫が大きいのが特徴とこのことで、大人の手のひらほどの大きさのものが目立ちました。道具を使って礫の表面を少し削ると**白色や茶色の肌**が現れました。多くは風化が進んだ「クサリ礫」となっているそうです。この大きな礫のほかに、硬い岩石の代表である**チャート**も含まれていました。



くらしの森エリアに戻り、**03**番の大崖を目指しました。北尾根への道の脇で根が浮き上がって倒れかけたカシの木を見ました。**浮き上がった根**はあまり長くなく、礫が多いので根が張れないのだろうとこのことでした。**大崖**の周辺では基準値を超える鉛が土壌から検出されたエリアに柵が施され、地層に近づくことができないので遠くから観察しました。そして村松先生から提供された1985年撮影の写真を見ながら説明を聞きました。この場所では唐山層は見られず、上から八事層の礫層、次いで八事層の最下部である砂層、そして矢田川層猪高部層の順に見られることが紹介されました。フィールドスコープで観察していると砂層の中ほどにカワセミの巣穴が見つかりました。穴が掘りやすいせいかここではよく見られるとのことでした。



カシの浮き上がった根



大崖



村松先生撮影の1985年の大崖

最後に炭焼き広場に移動し 04 番の猪高部層を観察しました。礫層とその下のシルト層が見られました。そして炭焼き広場の石垣に使用されている石が濃飛流紋岩類であることが紹介され、角が取れ丸みを帯びる特徴を確認しました。濃飛流紋岩類は愛知県では石材として流通しておりいろいろな所に使用されているそうです。



炭焼き広場横の猪高部層



猪高部層の礫層とシルト層



濃飛流紋岩類の石垣

以下ではその他の観察項目の中から簡単に紹介します。02 番の唐山層の付近ではユズリハ、ヤツデの実などを見ました。その後くらしの森へ移動する道沿いではコブクザクラが花をつけているのを観察しました。



ユズリハ



ヤツデの実



コブクザクラ

北尾根へ上がる道沿いでは、この日どこを歩いてもその花の匂いが漂っていたヒサカキを見ました。池では孵化したばかりのニホンアカガエルのオタマジャクシをすくって観察しました。炭焼き広場のイザヨイザクラはちょうど満開で、初めて見たという参加者からおしべが長いのが目立つとの感想が聞かれました。



ヒサカキ



アカガエルのオタマジャクシ



イザヨイザクラ

天候の悪化が心配されましたがなんとか最後まで小雨で済み、傘をさすほどの降りにはなりません。一見動かない地層ですが、長い時間の単位で見ると緩やかな動きの中にあり、その動きは何かしらの事象や事件を伴っていることがわかりました。いつもは動き回る虫たちに気を取られがち自然観察会ですが、今回の講座を機に地層にも関心を持った参加者も多かったようです。新しい発見に恵まれた春の観察会となりました。

平和公園での観察項目（観察順）：東海層群矢田川層猪高部層、唐山層、濃飛流紋岩類、チャート、アラカシ、ユズリハ、ヤツデの実、アオキのつぼみ、シュロ、建設中の保育園、コブクザクラ、ネジキ、ヒサカキ、倒れかけたカシ、爆弾のあと、オオカマキリの死骸、八事層、カワセミの巣穴、アカガエルの卵塊とオタマジャクシ、イザヨイザクラ、ツクシ、アズノつぼみ、ブンゴウメの花、カダヤシのオス